

令和7年度 県立日立第一高等学校全日制（単位制） 自己評価表

目指す学校像	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。 そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うとともに3年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、次のような生徒を育成することを目指す。 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒				
三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成するため、次のような資質・能力の育成を目指します。 ○自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる資質・能力 「やり抜く力」＝GRIT：Guts、Resilience、Initiative、Tenacity ○物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる資質・能力 ○高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる資質・能力 ○運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる資質・能力			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○進学重視型単位制の特徴を活かし、多様な選択科目を設置し、少人数授業を展開します。 ○普通科では、文系コース・理系コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○サイエンス科では、医学コース・医学系進学コース、理工系進学コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○教科指導の充実に努め、主体的・対話的で深い学びを推進し、課題発見能力や課題解決能力を育成します。 ○生徒が主体的に取り組む学習活動と特別活動の両立を推進し、生徒のやり抜く力や自ら健康を管理する力を育成します。 ○生徒が主体的に企画・運営する生徒会活動・学校行事等を充実させ、自主性や豊かな人間性を育成します。 ○国際交流、高大連携事業、大学・職場見学、ボランティア活動等の体験事業を推進し、生徒の高い志を育成します。 OSSHで培った「課題研究」を推進し、論理的に議論できるリーダーを育成します。			
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	○本校の学修に必要な基礎学力を有している生徒 ○他者と協働して活動し、主体的に学ぶ姿勢を有している生徒 ○課題を見出し、課題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有している生徒			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目		重 点 目 標	達成状況
【学習指導・進路指導】 【成果】 ・3年間を通した探究活動への積極的な取組により、各種大会で輝かしい実績を残している。 ・個に応じた進路・進学指導が実を結び、生徒個々の進路希望に応じた多様な大学への進学者が増えるとともに、東京大学や京都大学、筑波大学医学類などの難関大学への進学者が継続して出ている。 【課題】 ・主体的・対話的で深い学びの一層の推進による授業改善 ・進学ノウハウの共有と成果検証 ・各自の進路形成に資するキャリア・パスポートの効果的な活用 【生徒指導】 【成果】 ・生徒の自主性・自律性を重んじた一貫した指導により、生徒指導上のトラブルは少ない。 【課題】 ・長欠等、目標を見失った生徒や特別な配慮が必要な生徒へのケア 【特別活動】 【成果】 ・学校行事や部活動に生徒が積極的に参加している。部活動と家庭学習のバランスを上手に取れる生徒が増えてきた。 【課題】 ・リーダー的資質の育成 【国際教育】 【成果】 ・イギリス（ロンドン）へ渡航し、ロイヤルラッセルスクールの模擬国連に参加して、国際的な諸問題の解決策を提言することができた。 【課題】 ・生徒の英語力の向上を目指した様々な方法の構築 【科学教育】 【成果】 ・SSH事業を通して、サイエンス科・普通科ともに課題研究で探究・研究活動を進める際の活動計画性やICT技術、ディスカッション力が向上している。 【課題】 ・課題研究での結果・考察における数値の取り扱い及び、発表会時の質問者側のディスカッション力 【働き方改革】 【成果】 ・様々な取り組みにより、一人一人の業務量が多くなっている。 【課題】 ・教員一人一人の意識改革による残業時間の縮減		1	高い志の育成	①生徒の進路希望を達成する教育課程の改編の検討（教務部、進路支援部、各教科）	A
		2	学力の向上	②タブレットの活用の推進及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直し、生徒の授業満足度（項目5、6）の学校の評価平均3.5以上（教務部、進路支援部、各教科） ③総合的な探究の時間の充実・改善（教務部、SSH、1・2年次） ④先取学習や学習の深化などの附属中学校の学習指導の教科内共有と中高交流授業と中高接続の充実（各教科） ⑤特別な支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に対する組織的な支援の推進（教務部、各年次、各教科）	A
		3	豊かな人間性の育成	⑥教育相談や面談を通した生徒理解及び生徒・保護者支援の充実（教育相談部、各年次） ⑦主体的な態度を育てる特別活動や学校行事の工夫・改善（特別活動部、各年次）	B
		4	働き方改革	⑧業務の効率化及び複数人体制による、個人が抱える業務量の軽減（各校務分掌） ⑨将来的な部活動の地域移行等も視野に入れた働き方の抜本的な見直し（特別活動部、教務部）	B

評価項目		具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
国 語	1	〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の二領域の資質・能力を総合的に育成し、基礎学力を養成する。(第1年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含めた学力の向上を図る。	①、⑤	B	・1年次における基礎力(文法・語彙・読解の手順)の定着を徹底させる。そのためには、言語文化3単位における古文・漢文・近現代文の基礎力育成についての指導方法を国語科全体で研究していく。 ・生徒自身が、自分の考えを文章化できる力を向上させる指導方法を国語科全体で研究していく。 ・上記にもあるように、国語科内での指導研修を通して、指導力の向上を図る。 ・中高連携についても、相談体制をさらに密にして検討を重ねる。 ・学力差に応じた、個に対応する指導の工夫を充実させていく。
			2)	中高合同で定期的に授業見学や教科会での研修を行って授業改善を図り、教科指導力の育成と向上を図る。	①、④	A	
			3)	中学生との交流授業を計画、実施して、中学校の深化学習と中高一貫教育の接続の在り方について研究する。	①、④	A	
			4)	年次に応じた多様な分野における読書指導と表現指導を行い、調和的な言語能力を育成する。	①、②	B	
	2	現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの応用学力を養成する。読解力、鑑賞力、表現力の育成・向上を図る。(第2年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、段階別の課外や個別指導を設定し、成績上位層のさらなる伸長への支援と特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含めた学力の向上を図る。	①、⑤	B	
			2)	中高合同で定期的に授業見学や教科会での研修を行って授業改善を図り、教科指導力の育成と向上を図るとともに、中学校の学習の深化と中高一貫教育の在り方について研究する。	①、④	B	
			3)	年次に応じた多様な分野における読書指導と表現指導を行い、論理的な思考力・表現力を養成し、論述力の育成と向上を図る。	①、②	B	
	3	現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの受験に対応した学力のいっそうの向上を図る。言語文化に対する広くかつ深い関心を持たせ、高等教育に接続する思考力を育成する。(第3年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、段階別の課外や個別指導を設定し、成績上位層のさらなる伸長への支援と特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含め、生徒の進路希望を達成するために学力の向上を図る。	①、⑤	A	
			2)	中高合同で定期的に授業参観や教科会での研修を行って授業の改善を図り、教科指導力の育成と向上を図るとともに、中学校の学習の深化と中高一貫教育の在り方について研究する。	①、④	B	
			3)	年次に応じた読書指導と表現指導を行い、個別指導により進路希望の分野に応じた論述力の育成と向上を図る。	①、②	B	
地歴公民	1	中高一貫教育校として、工夫された教育課程を編成し、生徒の進路希望の実現に向けて、学力の向上に努める。実施にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しに留意しつつ、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。	1)	1・2年次においては、望ましい学習習慣を確立させ基礎基本の定着を図る。3年次においては、授業を基本として学習を進めることの他に、多様な希望に応えるため、個別指導や課外指導を積極的に行う。	①、②	A	・内進生への指導過程の再検証に関して、中高教員がそろった教科会のテーマとしてもう少し深堀りしていきたい。 ・ICTの活用において、使用状況が教科によってばらつきがあるので、活用例などを発表することで、教科内での研鑽に努めたい。 ・科学教育と人間生活について考えさせる機会が少なかったので、総合的な探究の時間などの内容と絡めて取り組んでいきたい。
			2)	附属中学校の授業実施者と情報交換を行い、中高接続を意識した学習活動を展開する。	①、②、④、⑤	A	
			3)	中高の教員が一体となって、内進生への指導過程を再検証することで、最難関大学合格へ向けた指導の在り方を検討する。	①、②、⑥	B	
			4)	ICTの活用及び「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して、科学技術と人間生活について考えさせ、国際社会について考察する能力を身に付けさせる。	①、②	B	
	2	地理歴史科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。様々な視点を学ぶことにより多角的な思考力を涵養し、国際社会の中で主体的に生きる資質と能力を養う。	1)	1・2年次の授業では、地理や歴史に対する興味関心を喚起し、基礎基本の習得に努めさせる。世界の諸課題について、地理的に考察させるとともに歴史的な背景を理解させ、現在行われている対策について分析する方法と能力を身に付けさせる。	①、②、③	A	
			2)	3年次の授業では、1・2年次の学習内容を基礎としてより発展的な知識および技能の習得を図り、大学受験に対応できる能力を養う。自らの在り方・生き方を考察するなかで、世界の諸課題に対する論理的思考力を養う。	①、②	A	
	3	公民科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。政治・経済・倫理をより具体的に学ぶことにより、社会や自己の在り方について深く考察できる資質と能力を養う。	1)	1年次の「公共」においては、民主政治における個人と国家の在り方を学習させ、国際社会の一員としての自覚を形成させる。	①、②	A	
			2)	3年次の「政治経済」「倫理」では、教科書の内容の定着を図るとともに、課題学習や論述指導を行い、国際社会の中で自らの在り方・生き方を深く考察させる。また、授業内容は大学共通テスト以上の水準を維持する。	①、②	A	
数 学	1	3年間を見通した学力の養成	1)	1年次(高入) 基本的な知識・技能の習得の徹底を図り、基礎力・計算力の育成を図る。	①、⑤	A	・中高一貫校における教科指導の在り方の研究 ・共通テストに向けた教材の選択や指導方法の研究 ・電子黒板やタブレットなどICTを活用した指導の研究 ・サイエンス部との連携 ・難関大学入試に向けた教材研究
				1年次(内進) 基礎力・計算力の育成を図るとともに問題演習を通して知識を活用する能力を養っていく。	①、④、⑤	A	
			2)	2年次(普通科)教科書内容の理解の徹底を図り、章末テストを行う。さらに、問題演習を通して応用能力を養っていく。	①、⑤	A	
				2年次(サイエンス科)教科書内容の理解の徹底を図り、章末テストを行う。さらに、発展的な内容の問題演習を行い実力養成を図る。	①、⑤	A	
			3)	3年次(普通科)少人数授業を行うことで、文系、理系を問わず、大学入学共通テストに対応だけでなく、記述力の養成を図る。	①、⑤	A	
				3年次(サイエンス科)少人数授業で、大学入学共通テストの対応はもちろん、発展的、融合的な記述問題にも取り組み、記述力の養成を図る。	①、⑤	A	
	2	指導すべき基本事項の精選と、その理解の徹底、計算力の育成	1)	「課外等(3年次)」により基礎力を培う。「課題(2年次)」を通して基礎力の定着を図る。1年次は「週末課題」を課し、単元ごとに章末テストを行う。	①	A	
	3	成績上位者のさらなる学力向上	1)	成績上位者に対する個別指導を行う。	①	A	
	4	知識量に頼らない応用力の育成	1)	週末課題や章末テストの実施を通し、予習・復習の習慣化を徹底させ、主体的に学ぶことの大切さを伝える。	①	A	
	5	既習分野の実力育成	1)	ネットワークを通した教材配信などを通して、既習・未習分野の学習内容の理解を深めさせ、次年度の授業につながる学力を養成する。	①、②	B	
	6	「科学する心」の育成	1)	白垩研究等の授業を通して、科学に関する興味関心を喚起し、論理的思考力・創造力の養成を目指す。	①	B	
理 科	1	中高6年間を通した指導の研究	1)	発達段階や個に応じた指導内容や指導方法の研究を通して、中高一貫教育の充実を図る。	①、④	B	・中高合同授業の効果的な実施 ・中高一貫の教科指導の在り方の研究 ・電子黒板やタブレット等ICTを活用した指導の向上
			1)	小テストや確認テストにより知識の定着を図るとともに、演示実験や生徒実験を通して、自ら疑問を解決する生徒を育成する授業を展開するように努める。	②	A	
			1)	演示実験や生徒実験を多く行うことで知識の定着を図り、物質の構造や物質の変化等がわかりやすい授業を目指す。	②	B	
			1)	小テストや生徒実験により知識の定着と思考力・判断力・表現力の定着を図るとともに、丁寧な予習指導と、生徒による討論や解説を行い、主体的に学習に取り組む態度の涵養を目指す。	①、②	A	
			1)	大学入試共通テストに必要な知識の定着を図る。また、観察・実験時のグループワークやレポートの提出を通して、地球や自然現象についての概念に興味を持ち、主体的に学ぶことで理解を深める授業を目指す。	①、②	A	
			1)	中高一貫校の強みを生かし、学習内容とともに中学校での発表やディスカッションが活かせる授業づくりを研究・実施する。	④	B	
			1)	二次対策を見据えた問題演習に取り組み、受験対策に努める。	②	A	
			1)	小テストや定期考査の結果や提出物の状況から、個別指導や成績不振者に対する課題提出など基礎力定着のための指導を行う。	⑤	A	
			1)	「主体的・対話的で深い学び」の機会を設けた授業展開により、基本的な研究スキルを身に付け、科学的ディスカッションができる人材の育成を図る。また、評価の研究も行う。	②	A	
	9	生徒の学力向上のため、さらなる科内連携の強化を図る。	1)	中学・高校の教員がそろった科会を利用して、附属中学や高校で学習する教科書や理科実験の内容を定期的に紹介し、実験方法や考察などについて意見を交換することで、中高6年間における学力向上を図る。	①、②	A	
			2)	特別な支援を必要とする生徒や成績不振な生徒に関する情報を科内で共有し、組織的に対応を図る。	②、⑤	A	

保健体育	1	個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めさせるとともにグローバルな視野で健康をとらえ実践していく力を育む。	1)	これからの社会を担う一員としてグローバルな視点で健康について考える重要性を理解させる。	①、②	B	A	・保健の授業において、ICTを活用し、生徒自らが健康についての調べ学習やグループ発表に意欲的に取り組み、さらに対話的で深い学びができるよう努めていきたい。 ・今年度体力テストにおいては昨年度に引き続き、県上位の結果であった。来年度も継続して上位を目指したい。 ・実技の授業でも、ICTをさらに活用できるよう情報交換や研修に努めたい。
			2)	課題解決型グループ学習での主体的・対話的な学びを通して、健康課題に適切に対応する能力を育てる。	①、④	A		
			3)	視聴覚教材の活用や実習を通して、健康安全に関する重要性を認識させ、知識を見識へと導く。	①、②	A		
	2	運動技能を高め、強健な心身の発達を施すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じてスポーツに興味・関心を示し、主体的に運動を実践できる能力と態度を育む。	1)	体づくり運動、水泳、長距離走を重点種目に設定し、意欲的に取り組ませるとともに、体力の向上を図る。	①、②	A		
			2)	運動・スポーツの楽しさを味わうことができ、生涯体育として取り組める生徒の育成を目指し、新体力テストでは県トップレベルを目指す。	①、②	A		
			3)	各種目において、自己やチームの課題に応じた反復練習や課題練習を通して、主体的に運動技能を高める。	①、②	A		
芸 術	1	感性を高め、芸術の基礎的諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	1)	生徒が芸術に主体的に関わり、知覚・感受したことを互いに共有・共感し合う中で芸術文化を理解し、意図を持って表現できるような指導に努める。	①②④	A	A	・歴史や理論の授業においてICTを活用し、生徒自らが調べ学習に取り組む体制を作り、グループ発表をさらに多く取り入れたい。 ・実技の授業でも、ICTをさらに活用できるよう情報交換や研修に努めたい。 ・芸術系進路希望者に対する指導をさらに充実させる。
			2)	表現と鑑賞のバランスのとれた授業展開を工夫して、芸術的な素養を身に付けさせる。	②	A		
	2	芸術系進路希望者の実力養成	1)	個別指導を充実させて実技試験に対応できる表現力を養う。	②⑤	A		
英 語	1	英語の4技能5領域を統合的に育成し、実践的コミュニケーション能力の基礎を習得させる。	1)	英語コミュニケーションIでは、少人数授業やチームティーチングの利点を生かして指導の個別化を充実させる。	②、⑤	A	A	・ICT機器を活用し、題材への興味・関心を高めながらわかりやすい指導を心掛けた。 ・チームティーチングの授業では、JTEとALTとの打合わせを毎時実施し、生徒の言語活動を充実させるための工夫を行った。 ・語量の月例テストを実施し、成績不振者に対しては再テストを課すことで基礎基本の定着を図った。 ・ALTによるパフォーマンステストを2回実施し、スピーキングの向上に向けて計画的に言語活動を取り入れて授業を展開した。
			2)	論理・表現Iでは、ネイティブ教員と連携を図りながらライティングとスピーキングの指導を充実させる。	①、②	B		
			3)	授業ではペアワークやグループワークを効果的に取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組むための手立てを工夫する。	②、⑤	B		
			4)	学習内容の定着を図るために定期的に課題テストを実施するとともに、指導と評価の一体化に努める。	②、⑤	A		
			5)	生徒の学習到達度に応じた課外授業を実施し、基礎基本の徹底や発展的学習の機会を充実させる。	①、⑤	A		
	2	読解力・表現力の育成を中心に、実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を育成する。	1)	英語コミュニケーションIIでは、教科書の題材に関連した言語活動を工夫し、生徒の学習への興味・関心を高められるよう努める。	①、②	B		
			2)	論理・表現IIでは、音読練習や問題演習を通して基本的な文法や構文を理解し、様々な場面や状況に応じて適切に英語を運用できる力を身に付けさせる。	①、②	B		
			3)	外国人教員やALTとのコミュニケーション活動を通し、積極的に英語を使おうとする態度を育てる。	①、④	A		
			4)	授業の補完的・発展的な学習のために副教材を計画的に取り入れ、高いレベルの英語力を身に付けさせる。(英検2級～英検準1級程度)	①、④	A		
			5)	ICTを効果的に活用することで英語に触れる機会を増やすとともに、個に応じた指導を充実させる。	①、⑤	A		
	3	英語の4技能5領域を統合的に結び付けた言語活動を通して、情報や考えを理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を養う。	1)	英語コミュニケーションⅢの授業では、テキストの文構造を正しく理解した上で内容を読み取らせる指導に重点を置き、多様な語句や文を目的や場面に応じて適切に用いて、読み取った内容を相手にわかりやすく英語で伝える能力を養う。	②、④	A		・年間学習指導計画に沿った授業を実施することができた。 ・ICT機器を効果的に活用することで、個々の生徒の学力に応じた指導を行うことができた。 ・ディクテーションや音読の活動を継続し行い、リスニング力の向上と語彙、構文の知識の定着を図った。
			2)	論理・表現Ⅲの授業では、演習問題を通して文法や語法の知識を定着させ、あるトピックについて論理の構成や展開を工夫しながら、まとまった文章を書いたり、自分の考えを発表できる力を養う。	②、④	B		
			3)	生徒の学習到達度に応じた課外授業を展開し、生徒が自ら学ぶことができる学習機会を充実させる。	④、⑤	A		
			4)	ICTを活用した工夫ある授業を展開し、学び合いや個に応じた指導を充実させるとともに、指導と評価の一体化を図る。	②、④	A		
家 庭	1	人の一生を見通しながら持続可能な社会の構築を目指して生活する能力の育成	1)	自立した生活を送るために必要な基礎・基本の定着を図る。	①	B	A	・ALTの力を十分に生かすことができなかった。 ・生徒が主体的に学び自分の生活課題を発見、課題解決する力を身に付ける ・単元ごとの実習時間の確保、実習内容の充実
			2)	グループ学習を取り入れ、人と関わり共に生きる態度と協力して生活を創造する力を養う。	②	A		
			3)	安全に気を配り、実習助手と協力してきめ細かい指導を心がけた実習を行う。	⑤	A		
	2	課題解決能力の育成	1)	ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、家庭や地域の課題を発見し、生活を充実向上させる力を育てる。	④	A		
情 報	1	情報社会に参画する態度の育成	1)	講義や実習を通して、情報社会における基本的な知識と技術、情報モラルを習得させる。	①	B	B	・グループワークや実習の充実 ・生成AIにおけるメリットやデメリットを学べるような教育活動を取り入れていく。 ・共通テストだけでなく、国立大2次・私立大入試における学習指導法の研究に努める。
	2	情報活用実践力の育成	2)	実習を通して問題解決の手順を理解し、適切な情報手段を判断・活用し解決できる能力の養成に努める。グループワーク・プレゼンテーションなどの協働活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	①、②	B		
	3	新教育課程・共通テストの研究	3)	新教育課程における授業内容・授業展開・学習指導法の研究・実践に努める。また、共通テストにおける分析を行い、次年度以降への学習指導法の研究・実践に努める。また、多様な生徒に対応した授業づくりに努める。	②、④、⑤	A		

教務部	1	学校行事の円滑な運営に努め、実施後に広く意見を集約し十分な検証を行う。新規行事に特に注意し、来年度以降の内容の充実に努める。	1)	学校行事の内容を十分検討し、適正な時期に計画し実施する。目的を明確にし、効果的な役割分担を計画する。特に、新設された行事や時期が変更になった行事について検討を行い、内容の充実に努める。	①	A	A	・先取学習をしている附属中学校と連携し、教育課程を精査し、より効果的な教育活動を行えるように整備していく。 ・定期考査時の緊急時対応に関して監督時にタブレットを持参しGoogleMeetを繋いでいるが、取組が教員間で定着してきた。慣れから来るミスが無いよう、さらに改善していきたい。 ・中学生の数が激減している県北地区では、生徒募集にかなりの困難が生じており、一昨年は入試倍率も過去最低となった。昨年はやや改善したが、さらに対策を講じる必要がある。夏季に実施した学校説明会だけで無く、定期的な説明会を各地域ごとに行う広報活動を今後具体的に検討する。 ・各係ともその職責を十分に果たし、多忙の中でもミス無く、様々な教務的活動を継続・実施できた。しかし課題として時間割係は、通常の時間割変更や特編時の対応、考査時の対応を含め、要望に応えながらのハードワークが挙げられ、後継者育成も難しい。大幅な人員の入替が行われると、支障が出る可能性は大きい。 ・年間行事・月例行事に関して、各部・年次と常に情報を共有し、よりよい日程を検討しながら修正・実行できた。 ・生徒の端末・教室の電子黒板の不具合が以前より多く見受けられるようになっており、対応が難しくなっている。ZoomやMeet・ロイロノート・YouTube等に関する専門知識をもった教員の育成も大きな課題である。
			2)	各学校行事について、関係する校務分掌や年次との連携を密にし、円滑に運営出来るよう努める。また、附属中学校も含めた協働体制を構築するよう努める。	①	A		
	2	生徒の自己実現を図るため、授業時間の確保に努め、生徒一人一人の学力向上に努める。	1)	授業時数に偏りがないよう、時間割変更を的確に行い調整する。時間割変更業務の円滑な運営に努める。	①	A		
			2)	各教科との連携を密にし、より効果的な時間割編成に努める。	①	A		
			3)	授業交換のシステム変更に伴い、相対交換時のミスが発生しないように注意喚起し、複数人による体制を強化し、個人の業務量軽減に努める。	①⑨	A		
	3	各校務分掌、年次、教科が円滑に連携できるよう、学校運営の要として尽力する。また、これまでの取組に加え、今年度2年次に進級するサイエンス科の様々な取組についても積極的に支援する。	1)	校内定期考査の適正な実施に努め、公正な評価を行えるよう考査環境を整備する。	①	A		
			2)	生徒の出欠について、正確な状況の把握に努め、関係各部との連絡調整を円滑に行う。	②⑤	B		
			3)	生徒の多様な進路希望に対応するため、授業展開や実施場所の工夫を行う。	①②	A		
			4)	奨学金に関する情報を、正確確実に提供し、生徒のより良い学習環境の実現を図る。	①②	A		
	4	進学重視型単位制高校として、より選択幅の広い教育環境の充実を目指す。また、併設型中高一貫教育校として附属中学校との連携に取り組む。広報活動を強化し、本校の存在価値を周知できるよう努める。	1)	各科等で教育課程を工夫しやすいよう、様々な情報の提供に努める。	①	B		
			2)	附属中学校と連携し、学校説明会を含めた広報活動をより一層強化し、増える中高一貫校の中での本校の存在価値を高め、優れた生徒を確保し、本校の発展に寄与する。	①②	A		
			3)	附属中学校を含めた教育課程の研究を行い、併設型中高一貫校としてより効果的な教育内容の実施に努める。	①	B		
	5	進学重視型単位制高校として、ICT教育環境を整備し、魅力ある創造的な授業を目指し、相互授業参観や研究授業・ICT教育の実践を通じて授業方法及び評価の改善や研究に努める。	1)	教科や科目の目標と評価の観点を設定し、授業評価等のアンケートを通してその結果を可視化して検証し、PDCAによってその改善点を授業に還元できるように促し、教育効果が高まるような体制を確立する。	①②	B		
			2)	進路支援部や各年次と連携し、3年間を通した学習計画を充実させる。	①②	A		
			3)	総合的な探究の時間が円滑かつ効果的に実施できるよう各年次・担当部と連携・協力し進める。	③	A		
			4)	電子黒板やタブレットに関する問題点を改善し、利用環境を整備し、ICT教育が円滑に行われるように配慮する。	②	B		
			5)	教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努める体制を整備する。また、研究授業が盛んな中学籍の教員を活用し、「主体的・対話的」な深い学びを目指した授業研究・改善が行われるよう努める。	①②	B		
	6	特色ある取組として、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1)	イギリス海外研修、海外サイエンスセミナー、高大接続事業、高大連携事業等、本校における様々な事業について、実施方法や内容について検証するとともに、各部が連携しやすいよう努める。	①②	B		
	7	生徒確保に向けた宣伝活動を行う。	1)	学校行事などで写真・動画撮影を行い、ホームページ(高)の掲載依頼を行う。(高:情報との共催)	⑧	B		
			2)	中学校・進学塾等からの説明会の要請へ対応する。(中・高:教務との共催)	⑧	A		
進路支援部	1	生徒一人ひとりの目標達成に向け、個に応じた適切な進路支援に努める。	1)	進路に関する資料や情報の収集・整理と分析を行い、生徒に対し進路を考える上での情報を積極的に提供する。	③⑨	A	B	・大きく変化する社会や入試の環境に対応するため、本校が培ってきたノウハウの継承と発展の方策を検討したい。 ・生徒個々の興味・関心や進路希望に応じた支援をさらに充実させるため、導入している学習サービスやAIを活用した新しい進路・学習サービスの活用方法の研究に努めたい。 ・各大学の募集定員が増えつつある総合型選抜や学校推薦型選抜についての情報収集と、その情報をもとにした生徒支援の充実にも努めたい。 ・中高連携のさらなる推進に努めたい。
			2)	生徒との進路相談を充実させるとともに、『進路資料』等を作成・活用しながら系統的な進路支援に努める。	⑥	A		
			3)	新しい大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、生徒個々の能力・適性に応じた多様な入試制度を活用して進路実現に努める。	①	A		
			4)	PTA学習振興委員会等の組織を活用したり、保護者への進路情報の提供を通して、生徒の進路に関わる大人を増やし、多様な立場から進路について考える場をつくる。	①	A		
	2	高校生活3年間を見通した計画的、系統的な進路支援に努める。	1)	「日立一高学習ロードマップ」の活用や「進路通信」の発行を通して進路・学習情報の提供に努める。	⑥	B		
			2)	LHR・進路ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して自己の将来について考える機会を持たせるなど、キャリア教育の充実を目指す。	①⑨	A		
			3)	充実した課外授業や各種学習サービスの活用などを通して進路実現に必要な学力を養成するとともに、生徒個々がもっている背景に応じた個別支援の充実により進路実現に寄与する。また、サイエンス部と協働して地域医療を支える医学部医学科への進学者を増やすための支援ノウハウを蓄積・活用する。	⑦	B		
			4)	様々な講演会や進路支援を通し、人生100年時代における将来を見据えたグローバルな視点で選択できる力を養う。	①	A		
	3	各年次及び各教科と密接な連携を図り、個々の生徒の進路実現のための組織的な進路支援体制を充実させる。	1)	外部模試を受験する目的意識を明確にして、結果の分析・整理とその活用を強化するとともに、全職員で情報を共有し、事後の指導に活かす。	③	A		
			2)	大学入試等、進路に関する情報を収集・整理・分析し、各年次や教科に速やかに提供する。	③	B		
			3)	中高一貫校の強みを生かし、進路関係の研究会等の中高の教員が参加できる体制を構築し、積極的な情報交換と連携に努める。	②⑤	B		
	4	教員一人一人の進路・学習指導力向上に努める。	1)	大学や予備校等からの情報を進路支援部で集約し、職員に情報提供を行うとともに、教員対象の教科指導セミナーや研修会への積極的な参加を促し、教科指導や進路指導のスキル向上を図る。	①③	B		
保健厚生部	1	健康で安全な生活を営むために必要な自己管理能力と、あらゆる場面に応じた判断力を育てる。また、安心安全で充実した教育環境をつくる。	1)	健康診断・健康観察等を実施し、生徒一人一人の健康状態を把握し適切な健康管理に努める。	⑥、⑦	A	A	・暑さ指数による学校行事の改善、検討を考える。 ・教員を含め生徒の環境美化に努める意識改善が必要かと感じる。 ・学校生活が安心安全に送れるよう環境整備に努める。
			2)	防災機器の点検・管理、備蓄品管理を行う。避難訓練を通して生徒達の危機管理意識の高揚に努める。	⑥、⑦	A		
			3)	清掃活動やホームルーム・部活動等を通して、定期的な消毒等を行い学習環境の衛生管理及び美化に努める。	⑥、⑦	B		
	2	学校保健活動の推進と保健活動の向上に努める。	1)	学校保健委員会を通して1年間の学校生活の様子・体力測定の結果などを報告し、今後の取り組みに理解を求める。	⑥、⑦	A		
生徒支援部	1	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1)	様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	⑦	B	A	・外部からの苦情件数は僅かであったが、交通安全への意識不足や基本的なモラルの欠如によるものなので、安全への意識の高揚を引き続き図りたい。 ・いじめの早期発見と重大事態の対応について、学校組織全体での意識をより高めていく必要がある。
			2)	講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法的重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	⑥⑦	A		
	2	「社会の模範となる人材」としてのマナーを身に付ける。	1)	「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会や地域社会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	⑦	A		
			2)	LHRや総合探究などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	③⑦⑧	B		
	3	安全教育の推進と事故防止に努める。	1)	登校指導(自転車指導・不道路指導含む)を軸として、交通安全指導を定期的に行う。	⑦⑧	A		
			2)	薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	⑦	A		
			3)	教務部や教育相談部等と連携し、校内研修会を実施し、教職員のスキルの向上を図る。	⑤⑦⑧	B		

渉 外 部	1	保護者（家庭）、地域との連絡を密にし、相互理解を深め、円滑なPTA活動を行う。	1)	新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の企画を充実し、会員の出席を促す。	①	B	B	・各委員会における適正人数を検討する。 ・PTA総会などの行事運営を円滑に行う。
			2)	ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。	①⑦	B		
			3)	広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画、運営を充実させる。	⑦	B		
			4)	各高等学校との連絡を密にし、地域のPTA活動を活発にする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。	⑥	B		
			5)	校外で開催される各種大会、研修会や校内で行われる委員会等の業務について、複数の教職員で対応することで個人の抱える業務量を軽減する。	⑧	B		
特別活動部	2	各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成の一助とする。	1)	総務委員会・全体委員会で十分な審議をし、結果を会員に知らせて共通理解を図る。決定事項等を各専門委員会の活動に反映させる。	⑥⑦	B	A	・学校行事は生徒が主体となって企画・運営することができ、学校全体の活性化につながっている。ただし、特活行事の毎年開催にあたり、企画立案、マニュアル作成、予算計画および実行委員の体制については、綿密な協議並びに合意形成を図りながら、根底から見直す必要がある部分も事実上いくつか見られる。学校行事を遂行するにあたり、効率的な時間の使い方において、教職員の働き方改革や生徒の学習時間確保も踏まえて、さらなる改善が必要である。 ・クラス及び部活動などにおいて、リーダーシップのとれる人材が不足していることは否めない。リーダー研修会の実施を検討するなど、探究活動と並行して具体的対策が必要である。
			1)	生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体で「望ましい学校像」を実現するため、意識の向上に努める。	①、⑦	A		
			2)	学校行事やHRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。	①、⑦	A		
			3)	文化祭や体育祭など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。	①、⑦	A		
			4)	社会性や人間性を高め、地域社会においてリーダーシップのとれる人材の育成をめざし、またボランティア活動を積極的に推進する。	①、⑦	B		
学校図書部	1	図書館利用の活性化と読書活動の充実	5)	部活動への加入を奨励し、その活動を数的・質的に活性化・充実させながら、学業と部活動の両立を目指す。	①、⑨	B	A	・希望圖書の購入や展示の工夫等により、図書館来館者数、貸出冊数の増加を目指す。 ・委員による主体的な活動を促し、よりスムーズな活動ができるよう支援する。 ・各教科の指導計画や学校行事との連携を図り、図書館利用の活性化を図りたい。
			6)	部活動を複数の顧問で指導し、教員の心身の健康を維持することで活動内容の充実を図る。	⑧、⑨	A		
			1)	生徒の読書意欲を高める圖書の購入と、展示の工夫による図書館利用の拡大を図る。また、活発で創造的な図書委員会活動を推進する。	①、②、③	A		
			2)	各教科・各年次（高校）・学年（中学）および部活動等との連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	①、②、⑤	B		
			3)	館内の環境整備（館内配置の工夫、展示の充実やDVD等の新規図書資料の貸出、貸出しシステムのOA化）に努める。	①、②	A		
教育相談部	2	校内放送の充実と放送技術の向上	1)	生徒主体の活発な活動を促し、学校行事の円滑な実施に視する委員会活動を支援する。	①	A	A	・担任の負担軽減と早期対応のため、養護教諭、SC、SSW、外部関係者との連携はスムーズに図れた。 ・変わりゆく生徒一人ひとりに柔軟かつ早期に対応するために、専門知識を深めるとともに、よりコンプライアンス体制を強化しつつ、支援していく必要がある。
			1)	生徒がそれぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深められるように人格の成長の援助を図る。	⑥⑧	A		
			2)	専門家（SC、SSWなど）のアドバイスを受け、生徒及び保護者と情報を共有し、生活向上のための援助を行う。	⑥	A		
			1)	最難関理工系、医・歯薬系大学への合格者数が増加するように、進路指導部及び年次・教科との密接な連携を図りながら、充実した企画や行事の実施を図り、生徒の学習意欲の高揚に努める。	①、②、⑦	B		
			2)	地域や大学の医師による講義、医療機関等（国内）での研修を柱とした「メディカルセミナー」の内容を充実させる。	①、②、⑦	A		
サイエンス部 （サイエンス科）	1	日本そして世界をリードする科学技術者や地域医療等に貢献する人材の育成を図る。	3)	科学者や研究者による講義、研究機関等（国内）での研修を柱とした「サイエンスセミナー」の内容を充実させる。	①、②	A	A	・国公立医学部1名合格（1月現在） ・医学コース関連のメディカルセミナーでは、行事を見直ししながら毎月1回のベースイベントを実施してきた一方で、業務負担が大きかった。次年度は行事を精選していく。 ・サイエンスセミナーの日研修では、従来の講義形式をやめて、生徒が行っている自覚研究をテーマとしたディスカッション形式に変更した。実際の研究と関連する知見を得ることができたり、現役研究者から鋭い指摘を得る経験が得られた。 ・医学コース卒業生との懇談会の時期を見直し年内入試直前とすることで、3年生が具体的な問題意識をもって積極的に質問することができた。 ・研修旅行では、インフルエンザ対応のため現地の病院に何度もなかった。次年度以降、病院と宿泊地の距離を検討する。
			4)	SSH事業と連携しながら「課題研究」や「海外研修」の内容を充実させ、プレゼンテーション能力の向上や国際的な視野の育成を図る。	①、②	A		
			1)	体系的組織的な広報活動を行い、本校サイエンス科の教育活動について地域社会・近隣小中学校等への周知を図る。	①、③	A		
			2)	ホームページ等を通して啓発活動に努め、サイエンス科を志望する生徒を広く募る。	①、③	A		
			2)	「白堊研究Ⅰ」により、科学的思考力や科学的ディスカッションができる人材を育成するための研究をする。	②、③	A		
サイエンス部 （SSH）	1	「科学的思考力を持ち、ディスカッションができるリーダーを育成する」ための課題研究の充実を図る。	2)	1年次「総合的な探究の時間」において、生徒が普段から「目的」「方法（計画）」を意識して生活するようになる研究を行う。	③	A	A	・白堊研究Ⅰおよび1年次「総合的な探究の時間」の授業案の見直しを行い、目標達成のための手立てを、より具体的に示すことができた。また、新たに、白堊研究Ⅰで全クラス共通の指導内容については、動画などを活用し、指導の不公平が出ないような工夫もできた。 ・白堊研究Ⅱ・Ⅲを通して、生徒たちが主体的・協働的な取組ができるようになった。さらに、分野によってはⅡ（2年次）とⅢ（3年次）連携を強めることができた。 ・白堊研究Ⅰ・Ⅱを通して、統計学を強化することができた。 ・国際的に活躍する科学技術人材の育成に関しては、外部での発表会やコンテスト、研修会などに、生徒は積極的に参加し、高い評価を受けることができた。 ・SSHの普及に関しては、公開授業やHPでの広報活動を例年通り行い、ICT活用によって業務の効率化も図ることができた。 ・中高で、SSHがかかる科学的探究活動において、指導法や様式の統一を検討することができたが、「中高一貫校」としては、連携が弱い部分があるため、次年度は、さらに連携を深めたい。 ・業務の細分化による作業の分散化について、昨年度と比較して進めることができたが、個々の作業量の軽減までにはつながらなかった。次年度は、個々の作業量の軽減をさらに進めたい。 ・アンケートについてICT化を進めることはできたが、アンケート回数など生徒負担、教員負担の軽減には至らなかった。次年度は計画的なアンケートの実施に努めたい。
			3)	「白堊研究Ⅱ・Ⅲ」を通して、科学に対する興味・関心を高め、科学に主体的・協働的な取組みができる生徒を育成するとともに、コミュニケーション能力やディスカッション能力を向上を図る研究をする。	②、③	A		
			4)	「白堊科学A・B」を通して、科学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深めるため、ディスカッションの機会を設けた授業を展開する。実験等により、研究の基本的なスキルの向上を図る研究をする。	②、④	A		
			5)	中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	③、④	B		
			1)	「白堊科学セミナー」「科学講演会」「科学研修会」「数学力育成講座」など、大学・研究機関・産業界と連携した取組により、科学に対する意欲・好奇心を高める。	①、④	A		
	2	国際的に活躍する科学技術人材の育成を図る。	2)	「白堊ネイチャースクール」「科学研究発表会」「科学系コンテスト」「科学の祭典」等に、生徒を積極的に取り組ませることにより、科学者の資質の育成を図る。	③、⑦	A		
			3)	「科学英語」「海外研修」「白堊英語セミナー」を通して、コミュニケーション能力の伸長を図る。	②、③	A		
			1)	「SSH研究発表会」「SSH成果発表会」、及び「課題研究」に関する科目の公開授業を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。また、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。	②、③、④	A		
	3	SSHの普及を図る。	2)	「SSH研究発表会」「SSH成果発表会」、及び「課題研究」に関する科目の公開授業を実施に際して、案内や申込、アンケートなどをICTを活用して行うことで、出席者の取り纏めやアンケートの集計などの効率化を図る。	⑧	B		
			3)	SSH普及のための業務を細分化し、分担を明確にすることで、教員一人一人の指導力向上を図るとともに、作業の分散化により個々の作業量を軽減する。	⑧	A		
			1)	「白堊研究Ⅰ」や「数学力育成講座」において「統計学」を取り入れることにより、データの信頼性を高める活動をする。	②、③、④	A		
情報部	1	セキュリティ啓発とICT活用促進	1)	情報セキュリティ向上のための啓発活動を行うとともに、授業等でのICT活用が促進できるよう、教員研修を進める。	②⑧	B	A	・校務支援システム上で、出欠の日々入力を導入し運用を軌道に乗せることができた。 ・校内のアクセスポイントが未設置の6か所（物理室1・化学室1・選択B・選択F・白堊食堂・大会議室前廊下）へアクセスポイントの設置した。 ・支援システムへの出欠の入力が遅れたり、担任業務の周知が徹底されていない面があるため、マニュアルの整備等を進めたい。
	2	校内サーバ、及び校務支援システムの安定運用	1)	校内ネットワークサーバと校務支援システムの安定運用に努める。	②⑧	A		
	3	校内ネットワーク快適利用のための整備	1)	生徒所有PC、貸与PCのメンテナンス等、安全な使用方法をサポートし、教室無線LANなどの校内情報環境保守を確実に実施し、ICT環境整備を推進する。	②	A		
			2)	校内のアクセスポイントの設置、特別室等への電子黒板等のICT機器の整備を推進する。	②	A		
	4	学校からの情報発信の場として学校ホームページを適切に活用する。	1)	ホームページ（中・高）の管理・運営を行う。	⑧	A		

第1年次	1	社会の一員となる自覚と規範意識を持たせ、自主・自律の意識を持たせる。	1)	自主・自律の校風の下、規範意識を持ち、生徒自らが良好な学校環境を作り、課題を乗り越え、主体的に行動できるように指導・助言を行う。	①、③、⑦	B	A	・将来に向けて基本的なマナーと規範意識を身に付け、自主的・自律的に行動できるようにさせる。 ・進路目標をもち、自主的かつ継続的に学習する習慣を身に付けさせる。
			2)	HR活動や清掃活動等において心の教育を充実させ、マナーや倫理観を向上させる。	①、⑦	B		
			3)	豊かな人間性を育み、高校生活を前向きに継続していけるように生徒理解や保護者支援の充実を図る。	⑤、⑥	A		
	2	授業を大切にした学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けて基礎学力の定着を図る。	1)	授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、朝学習や家庭学習の習慣を身に付けさせることにより学力の向上を図る。	⑤	B		
			2)	基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題の継続的な取り組みや課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習記録表や学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。	②	B		
			3)	総合的な探究の時間を充実させるとともに、特別な支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に組織的な支援を行う。	②、③、④、⑤	A		
	3	高い志と目標を持つとともに、広い視野を持ち、社会に貢献する意欲を持たせる。	1)	進路支援部との連携を図り、面談実施、情報周知・共有化により、進路に対する意識を強める。	①、②	A		
			2)	HRセミナーや大学見学会を通して、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせる。	①、②	A		
			3)	SSH事業や国際交流事業などを通して、視野を広げ国際社会で活躍しようとする意欲を育成する。	③、⑦	B		
	4	部活動やホームルーム活動、学校行事への積極的な参加により、協調性・社会性・愛校心を持たせる。	1)	部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、困難にも前向きに取り組み、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	⑦、⑧、⑨	A		
			2)	課外の内容や設定を工夫しながら、部活動と課外活動が両立できる環境を整える。	⑧、⑨	A		
第2年次	1	社会の一員となる自覚と規範意識を持たせ、自主・自律の意識を持たせる。	1)	自主・自律の校風の下、規範意識を持ち、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	③、⑦	A	A	・朝学習の徹底と家庭学習時間の確保指導。スタディサブリの宿題を年次で配信し、全員に取り組ませることができた。 また、生徒自ら学習する習慣を身に付けさせることができた。 ・白堊祭等の各種学校行事や研修旅行・修学旅行を通して生徒・教師間の連携が図れ、国際的な視野も身に付けさせることができた。 ・担任面談を柱に学習指導や生活指導を計画的に実施でき、他の教員とも情報交換ができた。生徒には疑問点をそのままにせず積極的に質問したり、セミナー等へ参加したりなど、生徒が主体的に行動できるよう指導できた。 ・生徒の心のケア・生活指導（特にSNS利用に関する規範等）に対する連携をより強化する。 ・進路実現に向けては、英数国の基礎事項確立後、応用力・実践力を高め、夏休みから理社の学習が本格化するのを念頭に、怠りなく準備をする。担任面談を柱に学習指導や進路指導を計画的に実施し、生徒の第一志望実現への後押しをする。教科担当は担任と連携を密にし、情報交換する。 ・学校行事や部活動等を通じて、さらに人間的に成長しているように促す。
			2)	HR活動や学校行事において心の教育を充実させ、マナーや倫理観を向上させる。	⑥、⑦	B		
	2	授業を大切にした学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けて基礎学力の定着を図る。	1)	授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身に付けさせることにより学力の向上を図る。	①、④	B		
			2)	基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・配信宿題・校外模試等への積極的な取り組みを促す。	②、④	A		
			3)	面接の機会を設け、家庭学習記録などをもとに、生徒個々に対しアドバイスを行っていく。特に支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に対し組織的な支援を行う。	⑤、⑥	B		
			4)	授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、ICT機器を用いた授業の研究・改善を行い、教科指導の充実を図る。	②、④	A		
	3	高い志と目標を持つとともに、世界的な視野を持ち、社会に貢献する意欲を持たせる。	1)	進路支援部との連携を図り、面談実施、情報周知・共有化により、進路に対する意識を強める。	①、②	A		
			2)	HRセミナーやオープンキャンパスを通して、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせる。	①、③	A		
			3)	SSH事業や国際交流事業などを通して視野を広げ、国際社会で活躍しようとする意欲を育成する。	①、③	A		
	4	部活動やホームルーム活動、学校行事への積極的な参加により、協調性・社会性・愛校心を持たせる。	1)	部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	①、⑦	A		
			2)	課題テストの時期や宿題配信の分量の設定を工夫しながら、部活動と課外活動が両立できる環境を整える。	①、⑧、⑨	A		
第3年次	1	将来、社会において自らが担う役割を自覚させ、深い思慮と優れた判断力・行動力を身に付けさせる。	1)	最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。	⑥、⑦	A	A	・進路支援部のサポートにより、円滑に進路行事を進めることが出来た。連携を密にできたと思う。 ・年内入試の面接練習では、多くの先生方に協力をいただいた。次年度も、学校全体の協力により実施し、学校としての面接の指導技術の蓄積を行っていけるとよいと思う。 ・今年度は、例年よりも年内入試を希望する生徒が若干少なかった。総合的な探究のテーマ設定において進路を意識した設定をすると、それを活かしていこうという気風も生まれるのではないかと。 ・調査書についてはミスのないように慎重に取り組んだつもりであったが、見落としがあり、受験先へ連絡をしなければならぬ案件が出た。作成にあたって、要録と調査書との連動について、他分掌と協力して改善していく必要がある。 ・白堊会館の自習室は、平日は多くの生徒が利用していた。休日も一定数が主な学習場所として利用しており、今後も継続して使用できるように環境を整えていくことを希望したい。
			2)	日々の生活の中で、自己と社会との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。	⑥、⑦	A		
			3)	LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解・他者理解の深化を促し、深い思慮と優れた判断力・行動力を身に付けさせる。	⑥、⑦	B		
	2	高い志を維持し、第一志望校合格を目指して、進路支援部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。	1)	授業への集中力を高めさせると同時に、課外・ICT機器を用いた学習・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。	②、④	A		
			2)	朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、最適な自学・自習の環境を作る。	②、④	A		
			3)	生徒の希望する大学や学習到達のレベルに合わせた課外授業や習熟度別授業を行い、レベルアップを図る。	①、④	A		
			4)	進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。	③、⑤	A		
	3	最高年次として、部活動をはじめ学校行事ならびに特別活動やホームルーム活動への主体的な取り組みを促し、集団に寄与する精神を育てる。	1)	文武両道（学習活動と特別活動の両立）を目指し、心身の調和がとれた優れた人間性とたくましく生きる力を養う。	①、⑦	A		
			2)	各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導するリーダー性を養う。	①、⑦	B		
	4	自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心の幅を広げ、国際社会において貢献できる人材の育成に努める。	1)	基礎・基本を踏まえ、それを応用できる力の育成を目指し、一人一人の探究心や科学的思考力を高める。	①、③	A		
			2)	授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の育成に努める。	①、④	A		

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分